

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

融資先や用途を公開

銀行の役割に期待

40%を超える視聴率で話題になったテレビドラマ「半沢直樹」の原作者は大手銀行の出身です。それだからこそ金融界の内情を臨場感があふれる表現で描けたのでしょう。主人公が語る「倍返した」というせりふが流行し、一種の社会現象にまでなったのは、銀行が自らにふさわしい社会的責任や役割を果たしてほしいという人々の切実な期待や願望があるからに違いありません。

ドイツ誌シュピーゲルは2013年5月に、環境保全など社会的責任投資(SRI)に力を注ぐ金融機関を特集しました。

同誌によると、ドイツではSRIに関連する投資が2012年260億ユーロ(約3兆5千億円)に膨らみました。世界全体の投資額は5200億ユーロ(約70兆円)に上るとされています。最近の投資は風力発電や森林保護、有機農法などに向かっているそうです。

シュピーゲル誌がこの特集で紹介したのがオランダのトリオドス銀行です。1980年に設立され、2012年の顧客の数は約45万人でした。この銀行ではどの企業にいくら融資しているのか、また融資が何に使われているのかを、ホームページから誰でも調べられるようにしています。

頭取ら役員の給与も社会的にみて平均的な水準にしています。収益に連動して増減はせず、定額です。経営者が「もっと報酬を得たい」という気持ちに駆られない仕組みになっているのです。

トリオドス銀行のように、日本でもこれまでの常識に挑む金融機関が生まれてほしいと願っています。(株式会社グッドバンカー)